

総務教育常任委員会資料

(平成30年2月23日)

【項目】	ページ
1 「自立と分散で日本を変えるふるさと知事ネットワーク」第11回知事会合の開催結果について	【広域連携課】・・・ 1
2 伸びのびトーク in 湯梨浜町の開催結果について	【県民課】・・・ 2
3 第3回いいね! 地方の暮らしフェアの開催結果について	【とっとり暮らし支援課】・・・ 3
4 響かせようトットリズム♪とっとり元気フェス2018の開催結果について	【参画協働課】・・・ 4
5 鳥取県と企業との包括連携協定の締結について	【参画協働課】・・・ 6
6 鳥取県公式ホームページ「とりネット」内のNPO法人認証一覧における個人情報流出について	【東部振興課】・・・ 8

元気づくり総本部



「自立と分散で日本を変えるふるさと知事ネットワーク」 第11回知事会合の開催結果について

平成30年2月23日
広域連携課

平成30年1月22日（月）及び23日（火）に本県で開催した「自立と分散で日本を変えるふるさと知事ネットワーク」第11回知事会合の概要は次のとおりです。

- 1 日 時 平成30年1月22日（月）知事会合等 午後1時30分から4時30分まで
平成30年1月23日（火）視察 午前9時から10時まで
- 2 場 所 知事会合：三朝館（東伯郡三朝町山田174）
視 察：倉吉市役所、白壁土蔵群、白壁倶楽部
- 3 出席者 平井鳥取県知事、荒井奈良県知事
佐々木青森県副知事、藤田福井県副知事、渡邊三重県副知事、藤原島根県副知事

4 会議の概要

（1）地方の絆と災害に強い地域づくりについて

地域の助け合いによる災害対応などについて、平井鳥取県知事から平成28年鳥取県中部地震で発揮された人々の支え愛や地域コミュニティでの助け合い、また地震を踏まえた課題や教訓の事例紹介を行った。続いて、鳥取県瓦工事業組合の清水理事長から鳥取県中部地震の被害状況や復興に向けた取組についての報告後、各県の事例紹介と意見交換を行った。

また、平井知事の提案により、災害時に被災県に代わって構成県が「ふるさと納税」を代理受領する仕組みづくりについて検討を進めることで合意した。

（2）ふるさと創生に向けた大学との連携について

地方大学の魅力づくりや産学官連携、都市の大学との交流などについて、福井県からの課題提起に引き続き、各県が発表した。

大学との連携については、地方の方が都市部と比較して密接であり、産学官連携等も充実している事例が多いことから、今後も地域の特性を活かした大学との連携を進めていく。また、有償インターンシップやワーキングホリデーなどにより、都市の大学と連携を進めていくことで合意した。

5 視察

鳥取県中部地震において、地域で自主的に取り組んだ活動等について、復興支援隊 縁（えにし）及び realmac（リアルマック）の代表者等から話を聞きながら、現在も残る被災状況や復旧状況等について視察を行った。

〔参考〕

- 1 名 称 自立と分散で日本を変えるふるさと知事ネットワーク
- 2 設 立 日 平成22年1月21日（世話役：福井県）
- 3 メンバー 15県
青森県、山形県、石川県、福井県、山梨県、長野県、三重県、滋賀県、奈良県、鳥取県、島根県、高知県、熊本県、宮崎県、鹿児島（鳥取県と石川県は平成22年4月に、三重県は平成23年12月に、宮崎県は平成24年8月に、滋賀県と鹿児島県が平成29年8月にそれぞれ新規加入）
- 4 目 的 新しいふるさとの創造に向けて「地域主権」に内実を吹き込む政策グループとして、「自立と分散・連携」を掲げ政策のイノベーションを進めるとともに、そのために必要な政策の転換を国に積極的に提言する。

伸びのびトーク in 湯梨浜町の開催結果について

平成30年2月23日
県 民 課

県民（住民・NPO法人・経済団体・地域活性化等に取り組む団体等）と行政関係者等が、その地域が直面する課題などについて意見交換を行う「伸びのびトーク」を湯梨浜町で開催しました。

1 日 時 平成30年1月20日（土） 午後2時から4時まで

2 場 所 活性化センターはまなす（湯梨浜町園）

3 参加者 〔団体等〕 海の駅協議会、鳥取県漁業協同組合泊支所、湯梨浜振興合同会社、
（15名） 鳥取中央農業協同組合東郷果実部、湯梨浜町二十世紀梨を大切に作る町づくり委員会、
新規就農者、農業で住みます芸人
〔湯梨浜町〕 町長、副町長、産業振興課長 他
〔鳥取県〕 知事、元気づくり総本部長、中部総合事務所長 他

4 意見交換のテーマ・主な意見等

「地元産業の振興について」 ・海の駅の活用と漁業振興について
・東郷梨の生産振興について

〔主な意見等〕

- ・サーフィンや民宿、海の幸などを活用して泊地域を訪れる人を増やしたい。地域ぐるみで受け入れる機運のさらなる醸成が必要である。
- ・今年は「海の駅とまり」を核に活性化を展開していく。賑わいの拠点としての機能にも期待しているし、地元や県の栽培漁業センターともさらに連携を強めていきたい。
- ・梨の新品種である新甘泉・なつひめが好評で生産量も順調に増えてきているが、やはり日本一の二十世紀梨には誇りを感じている。生産量を増やし関東にももっと売り込んでいきたい。
- ・梨の生産には、多種の作業工程があるので、女性ならではの感性や高齢者が活躍する場面もある。様々な人に関わってもらいたい。
- ・農業や町の活性化には写真や動画による発信をさらに活発に行っていく必要がある。
- ・梨の新規就農は毎年数名あるが、稼ぎになるまで数年かかり、その間は生産のことで手一杯。情報発信や地域活動に力を割く余力がない。行政、地域のサポートが必要と感じる。

【意見交換の様子】



【参考】

○伸びのびトークの開催状況

平成29年度：5回（北栄町・南部町・江府町・日南町・湯梨浜町）
平成28年度：1回、平成27年度：5回、平成26年度：13回

○湯梨浜町での過去の開催概要

- H27.7.11 「湯梨浜町の未来をつくる！」
（グラウンド・ゴルフの国際化とインバウンド対策／移住・定住対策について）
- H24.4.23 「地域資源を活用した産業振興・まちづくりについて」
- H23.1.26 「東郷池及びその周辺の活動について」
- H21.7.27 「二十世紀梨産地の将来方向について」

第3回いいね！地方の暮らしフェアの開催結果について

平成30年2月23日
とっとり暮らし支援課

将来世代を支える社会を実現するために13県で結成した「日本創生のための将来世代応援知事同盟」が主催する「第3回 いいね！地方の暮らしフェア」に出展し、首都圏在住の若い世代に向けて、鳥取への移住を推進していくことを目的に、とっとり暮らしの魅力を発信しました。

1 概要

(1) 日時

平成30年2月18日(日) 午前10時から午後4時まで

(2) 場所

池袋サンシャインシティ文化会館（東京都豊島区東池袋）

(3) 内容

- ・参加各県による移住や就職、子育てに関する相談ブース
- ・各県の特産品販売ブース
- ・4県知事（長野県、鳥取県、岡山県、広島県）による子育てトークショー
- ・地元出身タレント（AKB48 Team 8）と知事による各県の魅力紹介

※AKB48 Team 8：AKB48の中のチーム。47都道府県から代表1名が選ばれた47人のメンバーで構成。鳥取県出身のメンバーは中野郁海（なかのいくみ）氏。

(4) 来場者数

- ・鳥取県ブース来場者数：183人



2 来場者の声

- 時期は未定だが、西日本への移住を検討しており、このようなイベントに参加するようにしている。鳥取は候補の上位であり、以前「とっとり移住応援メンバーズカード」も作っている。今日も転職等に関して親身に相談に乗っていただき、ますます鳥取を身近に感じた。
- 東京出身だが、自分には東京は合わないと感じており、夫婦で地方への移住を検討しているところ。これまでの経験が活かせる職種を探そうとしていたので、東京でも相談を受けてくれる窓口があることがわかってよかった。
- 妻が米子の出身であり、将来一緒に行くことになるかもしれない。同行して何度か鳥取には行っているので鳥取の良さは知っているつもりだが、もう少し詳しく知っておきたいと思って鳥取ブースに来た。

「日本創生のための将来世代応援知事同盟」

<参加県>

岩手県、宮城県、福島県、長野県、三重県、滋賀県、鳥取県、岡山県、広島県、山口県、徳島県、高知県、宮崎県

<目的>

- ・人口減少に歯止めをかけ、地方への人の流れをつくり、東京一極集中型社会を変える。
- ・独自の発想と実行力を持ち、人口減少社会に立ち向かうトップランナーを目指す知事が同盟し、地方創生のため行動する。

<設立>

平成27年4月

【今後の主な移住促進イベント等】

3/3(土)	住む・働く・鳥取県移住フェア（大阪）
3/10(土)11(日)	鳥取県・岡山県連携移住体験ツアー（鳥取・岡山）

※個別相談会：〔東京〕3/14(水)、3/17(土)〔大阪〕3/7(水)、3/28(水)

響かせようトットリズム♪とっとり元気フェス2018の開催結果について

平成30年2月23日
参画協働課

地域づくり活動への参加意欲の向上を図るとともに、活動団体同士の交流を深め、活動の更なる広がりを図り、県民総参加のムーブメント「トットリズム県民運動」を推進することを目的として「響かせようトットリズム♪とっとり元気フェス2018」を開催しました。

- | | |
|--------|---|
| 1 日 時 | 平成30年2月17日(土) 午前10時から午後6時まで |
| 2 場 所 | とりぎん文化会館(鳥取市尚徳町101-5) |
| 3 主 催 | 響かせようトットリズム♪とっとり元気フェス実行委員会(委員長 若本憲治氏) |
| 4 来場者数 | 約540名 |
| 5 概 要 | 分科会、ブース出展、交流会等を通じて、参加者同士の交流・連携が図られた。
また、民間の実行委員会による企画・実施で、多くの方が楽しめるイベントとなった。 |

(1) トットリズム活動表彰

34件の応募の中から、公開プレゼンテーション等により選出した、優秀団体7団体(最優秀賞1団体、優秀賞5団体、協賛企業賞1団体)を表彰した。



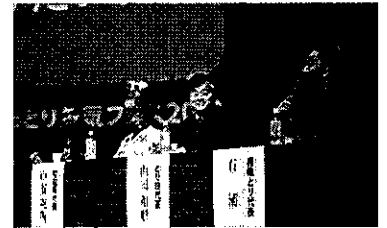
【最優秀賞】支え愛絆でつなぐコミュニティ実行委員会(鳥取市)
(支え愛・絆でつなぐコミュニティ「宿泊型避難所体験」)

【優秀賞】

鳥取県西部中小企業青年中央会、とっとりずむ、大山女性の会、
CAZADOR(カザドール)、境港・ベニガニ有志の会

【協賛企業賞(あいおいニッセイ同和損保賞)】

松崎自主防災会



(2) トークセッション

「私の〇取県」をテーマに、様々な分野で活躍されているゲストの方から「鳥取のいいところ」等を語っていただくことで、地域の魅力を再発見するきっかけとなった。

- <出演> 【星取県代表】金本成生氏((株)スペースシフト代表取締役)
【蟹取県代表】中谷英明氏(TottoriBlueSnorkel&PhotoService代表)
【とり鉄代表】山田和昭氏(津エアポートライン(株)シニアエキスパート)
【相撲とり代表】石浦関(宮城野部屋、とっとりふるさと大使)
和田季子氏(コーディネーター、フリーアナウンサー)

<主な意見>

- ・樹水高原はハワイのマウナケアに勝るとも劣らない星空が見える。また、市街地でもこれだけ星が見えるところはなかなかない。発信できていないのはもったいない。(金本氏)
- ・大雪で除雪がたいへんといった報道があるが、雪もありがたい自然の恵み。ネガティブに考えず、この豊かな自然を感じて楽しんでほしい。(中谷氏)

(3) 分科会

○「地域を発信～若者の取組事例から～」

SNSで鳥取のグルメ、観光スポット、地域イベント等情報の発信を行っている若者の事例の発表及び意見交換を実施した。

<主な意見>

- ・情報を発信しているところに情報は集まってくるものだと思ってもって学んだ。
- ・ネットだけのつながりになりやすいので、これをリアルなコミュニティ(つながり)にできるよう工夫が必要。



○「地域防災のススメ～これからの地域防災を考える～」

鳥取県中部地震等の経験を踏まえて、改善を続けながら活動続ける生田地区の自主防災組織の取組と、「宿泊型避難所体験」に取り組んだ鳥取市千代水地区の事例の発表及び意見交換を実施した。

<主な意見>

- ・日中地域にいる者で、自主防災組織を補完する防災協力員の仕組みを立ち上げるなど、既存の活動にとらわれない地域の実情に合わせた取組は大変参考になった。持ち帰って自分たちの地域でも検討したい。
- ・鳥取JCをはじめとする他の組織やNPOなどと一緒になって取り組むことで、活動の幅が広がる。

(4) アトラクション

逢鷲太鼓連、ジュニア逢鷲太鼓の迫力ある太鼓が、会場の雰囲気を盛り上げた。



(5) 交流会

実行委員会委員、トークセッション出演者や地域づくり団体関係者など、約40名が参加し、交流を図るとともに団体のPRや各分科会の総括が行われた。



(6) 活動PRブース出展

地域づくりに取り組んでいる団体や、そのネットワーク組織等18団体がブース出展を行い、地域づくり団体の活動PR等を通じて団体同士や来場者との交流を図った。

6 参加者の声

- ・鳥取県の良さを再発見できて良かった。
- ・綺麗な海や山、星空、美味しい海や山の幸など、鳥取は素晴らしいものが本当にたくさん有り、宮古島から移住してきた。住みたい田舎ランキング上位なのに納得している。
- ・地域づくりに取り組んでおられる皆さんの話を聞いて、さらに頑張ろうという気持ちになった。
- ・いろんな人が地域づくりに携わっているのだと知ることができた。
- ・同じように頑張っている団体とこのフェスで繋がることできた。

鳥取県と企業との包括連携協定の締結について

平成30年2月23日
参画協働課

2月20日に明治安田生命保険相互会社と、また2月21日に日本郵便株式会社と包括連携協定を締結しましたので、次のとおり報告します。

【明治安田生命保険相互会社】

1 調印式

- (1) 日時 平成30年2月20日(火)
午後4時から4時30分まで
- (2) 場所 知事公邸 第1応接室

2 調印者

明治安田生命保険相互会社
常務執行役 綾井 康之(あやい やすゆき)氏
鳥取県知事 平井 伸治



3 協定の概要

明治安田生命保険相互会社と県とが連携し、生命保険会社の使命である健康増進の支援、営業職員を通じた高齢者等支援などの取組を実施することにより、地域の様々な課題に対応し、地域の活性化や県民サービスの向上を図る。

(1) 協定期間

平成30年2月20日から平成31年3月31日まで(以後1年更新)

(2) 協定項目及び協定に基づく主な取組

ア 健康増進の支援に関すること

- ・がん対策セミナー等の開催支援
- ・営業職員による健康診断受診促進に向けた啓発活動

イ 子育て支援に関すること

- ・営業職員による婚活支援制度や子育て支援施策の周知
- ・ガイナール鳥取と連携した小学生向けのサッカー教室の開催

ウ 高齢者・障がい者の支援に関すること

- ・中山間集落見守り活動協定による高齢者等の見守り活動
- ・あいサポート企業として、あいサポート運動を展開

エ 産業・観光の振興に関すること

- ・東京本社での物産展の開催など、本県観光や県特産品情報の発信

オ その他、地域の活性化・県民サービスの向上に関すること

- ・地域の伝統文化活動への助成
- ・とっとり移住応援メンバーズカードへの協賛

※協定項目の一つとして、ガイナール鳥取と連携した小学生向けのサッカー教室等を実施することから、調印式には、株式会社SC鳥取 代表取締役ゼネラルマネージャー 岡野雅行氏にも同席いただいた。

<明治安田生命保険相互会社の概要>

- (1) 本社所在地 東京都千代田区丸の内2-1-1
- (2) 従業員数 42,542名(H29.9.30現在)
- (3) 県内体制 鳥取営業支社(鳥取市東品治町102)、営業所5
- (4) 県内従業員数 184名(H30.2.1現在)

【日本郵便株式会社】

1 調印式

- (1) 日時 平成30年2月21日(水)
午前11時30分から正午まで
- (2) 場所 知事公邸 第1応接室

2 調印者

日本郵便株式会社
中国支社長 長谷川 実(はせがわみのる)氏
鳥取県知事 平井 伸治



3 協定の概要

日本郵便株式会社と県とが連携し、県内郵便局と配達網を活かした中山間地の支援、暮らしの安全・安心、観光振興などの取組を実施することにより、地域の様々な課題に対応し、地域の活性化や県民サービスの向上を図る。

(1) 協定期間

平成30年2月21日から平成31年3月31日まで(以後1年更新)

(2) 協定項目及び協定に基づく主な取組

ア 中山間地の支援に関する事

- ・中山間集落見守り活動協定による高齢者等の見守り活動
- ・地域のニーズに応じた郵便局舎の空きスペースの活用

イ 暮らしの安全・安心に関する事

- ・郵便局長が防災士資格を取得して各地域へ防災啓発活動を展開
- ・あいサポート企業への登録やあいサポートメッセンジャーの養成など、あいサポート運動の展開

ウ 県政情報の発信、産業及び観光の振興に関する事

- ・オリジナル フレーム切手やゆうパック用包装資材による鳥取の発信
- ・県外郵便局等施設(東京・関西地区の郵便局等)と連携した鳥取県物産展の開催

エ 未来を担う子どもの育成に関する事

- ・とっとり子育て応援パスポートや子育て隊(企業)への登録

オ その他、地域の活性化・県民サービスの向上に関する事

- ・とっとり移住応援メンバーズカードへの協賛

※協定項目(観光振興)の一つとして、3月12日販売の「星取県」をテーマとしたオリジナルフレーム切手やデザインボックス(ゆうパック送付用オリジナル包装資材)を調印式会場に展示し、連携をPRした。

<日本郵便株式会社の概要>

- (1) 本社所在地 東京都千代田区霞が関一丁目3番2号
- (2) 従業員数 195,242名(H29.3.31現在)
- (3) 県内体制 全市町村に242郵便局(直営郵便局147、簡易郵便局95)

鳥取県公式ホームページ「とりネット」内のNPO法人認証一覧における 個人情報の流出について

平成30年2月23日
東 部 振 興 課
西部総合事務所地域振興局

鳥取県公式ホームページ「とりネット」内のNPO法人認証一覧で公開している、NPO法人の閲覧書類の「平成28年度事業報告書等」で役員及び社員に関する個人情報が流出しました。

記

1 東部振興課所管

- (1) 情報が流出した法人
NPO法人夢ハウス（鳥取市南吉方一丁目58）
- (2) 確認経過
平成30年1月23日（火）午前10時頃、当該法人の職員からとりネットで公開されている平成28年度事業報告書等において、役員及び社員名簿の住所が閲覧できる状態にあるとの指摘を受けた。当該掲載を確認したところ、個人情報の流出が判明した。
- (3) 流出した個人情報の内容
平成28年度事業報告書等に記載されている役員及び社員（13名）の住所
- (4) 流出の経緯
平成29年10月23日（月）に事業報告書等受理後、とりネットの「鳥取県のNPO法人認証一覧」にて公開した。
平成30年1月23日（火）午前10時頃に当該法人の職員から指摘があり、流出が判明し、午前10時30分に非公開とした。

2 西部総合事務所地域振興局所管

- (1) 確認経過
東部地区の個人情報流出事故を受け、西部管内においても確認したところ、同様の事案が判明した。
- (2) 情報が流出した法人とその内容
法人：米子市及び境港市内に主たる事務所を持つ3団体
内容：役員の住所（うち1団体は生年月日も含む）
2団体については平成29年8月以降にとりネットに公開、1団体は平成28年7月以降に公開
※団体の意向により、法人名は非公開としました。

3 原因

通常、NPO法人の事業報告書等の公開に際し、役員及び社員名簿の住所欄を伏せて公開しなければならぬところ、県の担当者が確認を怠っていたため。

4 対応状況

- (1) 判明後直ちに鳥取県のNPO法人認証一覧における当該法人の掲載ページの該当部分を非公開とした。
- (2) 理事長に経緯を説明するとともに謝罪し、今後再発防止に努めることを約束した。
- (3) 全県について確認を行ったところ、中部については該当がなかった。

5 再発防止策

- (1) ホームページの事業報告書等の内容の公開については複数の職員にて確認することを徹底する。
- (2) 県民課の対応：
 - ・ホームページの緊急点検を行い、結果を県民課へ報告するよう所属へ通知した。
 - ・県職員を対象に行った個人情報流出防止対策研修（1月29日～2月1日延べ7回開催）において、この度の事例を具体的に取り上げ、日頃から職員が取り組むべきことを示した。